

炬燵利用で
稻の發芽

簡單で自由自在
炬燵を利用して稻を發芽さ
れる方法、青森縣上北郡七戸
町役場書記成田啓次郎氏は十
有六年間にわたる稻作改良研
究に没頭した結果學者の提唱
してゐる温床による除苗代は
大反対の場合に於ては事實上
不能であるところから温床に
代るべき方法に苦心考究の結
果ついに一晝夜で一分、二晝
夜で二分と云ふ發芽を自由自
在に出来るところから温床に
代るべき方法を案出した。即ち同
氏の發芽法とは二週間以上水
にひたした種子を華氏八十度
の湯を入れた浅い器物に移し
て發芽をさせ得る發芽法で溫
度が上昇し過ぎる場合には冷
水を加へて調節すると云ふ至
極簡単なもので経費も大して
要せず一般家庭の炬燵（二尺
三寸ぐらゐ）利用で一回に一
斗の種穀（水田六反五畝歩の
分）發芽を立派に行ふことが
田氏の語る所は、出来得ると云ふのであつて成
功の如きも自分は立派に成
平年作を收めました。冷害
に悩む東北地方の農村民の
ために貢献することが出來
得れば満足だと思ひまして
皆さんにもお奨め致さうと
考へて居りますが極めて簡
單だから誰にでも出来るこ
とであると云々（終り）

新業

稻の發芽

炬燵利用で
稻の發芽

炬燵利用で稻の發芽

炬燵利用で稻の發芽